

吉野復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年4月27日(木) 15:15~15:20 於)福島県庁)

1. 発言要旨

今日伺いましたのは、復興庁が前大臣の発言を受けて、信頼が失われてしまいました。その信頼を回復しなければ、幾ら仕事をして、復興の加速化には結び付きません。そういう意味で、今日はまず信頼を取り戻すべく、福島県知事に対して、前大臣の発言で、東北の市民の方々に大変な傷を負わせたことを謝罪をしたわけであります。

知事からは、まず信頼が大事だ。そしてまだ、福島県は有事である。平時の状態には戻っていない。そして、福島県は浜・中・会津、この三つの地域からできている。浜通りだけでなく、会津も、中通りも、福島県全体が発展するためには、この3地域が元気にならなければできないと、こういうお話がございました。私も、県民の一人として、全くその通りだと思います。

今、私たちの福島県は有事です。私は常に医師不足のときに言っています。福島県は原発と戦争しているんだから、国立病院が109つあるんです。自衛隊もお医者さん持っているんです。派遣の要請ではなくて、命令しろ。戦争しているんだから命令しろって、いつも厚生労働部会等々でお話をしておりますけれども、まだ、命令でお医者さんが来たということは、実現をしておりません。

そのくらい、私たちは今、有事であるということをもっと国民の皆様方、特に今度は、私は政府の中に入りますので、政府の中に、今福島県は有事なんだということをきちんとお知らせする。これが私に与えられた大きな役割なのかな、こんな思いを持った次第であります。

今日は本当に、御苦勞様でございます。

2. 質疑応答

(問) 先ほど福島県は原発と戦争をしているとおっしゃいましたが、これはどういうことですかね。

(答) 原発事故で、多くの県民が避難をし、特に医師不足、今、お医者さんが本当に少ないんです。そういうことを表現した言葉として、原発と福島県は戦争をしているという表現を使っております。

(問) 大臣おっしゃられた、信頼が失われたので、それを回復にということですが、謝罪をして、直ぐに回復ということにはなかなかないかと思うんですが、今後、信頼を回復するために何が必要で、どんなことをしたいとお考えですか。

(答) 被災地、被災者に寄り添ってという、大変耳ざわりのいい言葉がございます。でも本当に、寄り添った政策ということであるのかな、そのところをもっと具体的に詰めて、寄り添った政策をしていきたい、このように考えているところです。

それが、信頼の回復につながる。今日来たから信頼回復して、もうゼロレベルに戻ったということではないと思います。ですから、私がこれから信頼回復のために努力をします。政府の中でも、発言をしていきたいと思います。そのことで、東北地方の方々が、吉野は信頼回復のために一生懸命やっているという姿をどう見せられるか、これが信頼回復の私に対する役割だ、このように理解しています。

(問) 今日、冒頭、謝罪というお話をされましたが、昨日、自民党の二階幹事長が、今回、前復興大臣の発言を念頭に、直ぐ首をとれというのはおかしいんじゃないかと、そういう報道、マスコミに対して揶揄(やゆ)するような発言をされましたが、それに対して、大臣はどのようにお感じになりますでしょうか。

(答) そのことについては、ちょっと私も報道だけで、本人からも確認しておりませんので、差し控えたいと思います。

(問) 震災直後の4月頃の衆院の予算委員会で、原子力損害賠償法では天変地異のときに国が責任を持つ規定だというような発言もありましたが、現時点ではどういうふうに考えていらっしゃるか、お聞かせください。

(答) あの時の、予算委員会での質問は、私、舌足らずで、天変地異だから、東電に賠償責任は要らないんだということを言おうとしたのではないんです。

そうであっても、東電に賠償責任はあるんだということを言おうとしたんですけど、言葉足らずで、皆様方に誤解を与えてしまった発言になったのかなというふうに今、反省しているところです。

(問) 被災地出身の大臣ということで、被災者の気持ちは誰よりも分かるという発言をなさっていましたが、今後、被災地が自立して、発展していく中で、厳しい判断をしなければならないこともあるかと思いますが。被災地との距離感というのをどのように考えて、政務をなさっていくというふうに考えていらっしゃいますでしょうか。

(答) 自立が一番の目標です。自立した国民としての生活をしてほしい、これが私たちの最終目標になろうかと思えます。

でも、一遍に、はい、ここから自立しなさいと、こう突き放すようなことは、私はしないつもりです。ですから、徐々に徐々にオーバーラップさせて、もう支援は要らないよというくらいのところまで支援をしながら、自立を目指していきたい、このように考

えています。

実は、昔々、私の会社で経理のコンピューターを入れたんです。でも、手書きの経理手法と、コンピューターの経理手法をずっとやっていたんです。そして、社員の方から、もう手書きは二重手間だからやめたいですという声が出るまで、私、コンピューター会計と、手書き会計をダブルでやった経験がございます。

このくらいまで、もう自立は済んだから支援は要らないよというところまで、私としてはやっていきたい、このように考えています。

(問) 先ほど福島の方の原発の状況を、原発と戦争しているというふうにおっしゃっていましたが、それを医師不足の問題と今、関連付けてお話しされたと思うんですが、現状の廃炉に向けての困難な作業が続いていますけれども、それからまだ避難している方もいっぱいいますし、まだ避難区域も残っています。

そういう状況も含めて、戦争をしているという理解なのか。

(答) それで結構ですね。

(問) それは具体的には、これからどういうふうにしていくべきだと思っていらっしゃいますか。戦争というと、かなり有事だということだと思えますけれども。

(答) 有事だという意識を持たせるために、戦争という言葉が、イメージを浮かばせるためには適当な言葉なのかなというふうな形で、私は今おっしゃった意味も含めて、我々は、福島県民は今、原発と戦争しているんだという、端的な言葉で表現しました。

これからも、よろしく願い申し上げます。

(以 上)